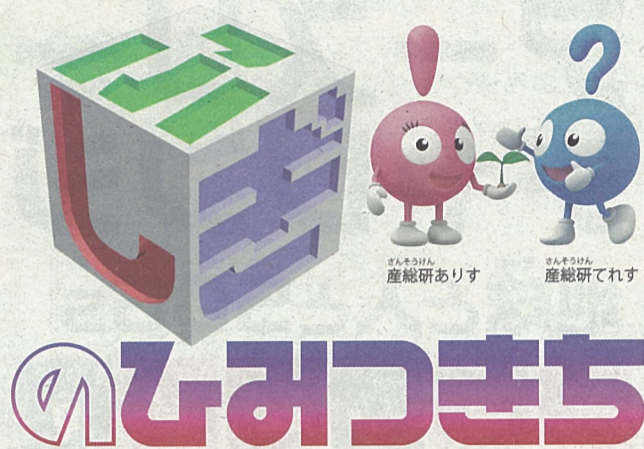


今回のテーマ

海の底にも谷がある!?



のひみつきち

No.038

川から運ばれた砂や泥を深い海まで運ぶ海底の谷地形「海底谷」の役目はなんだろう。

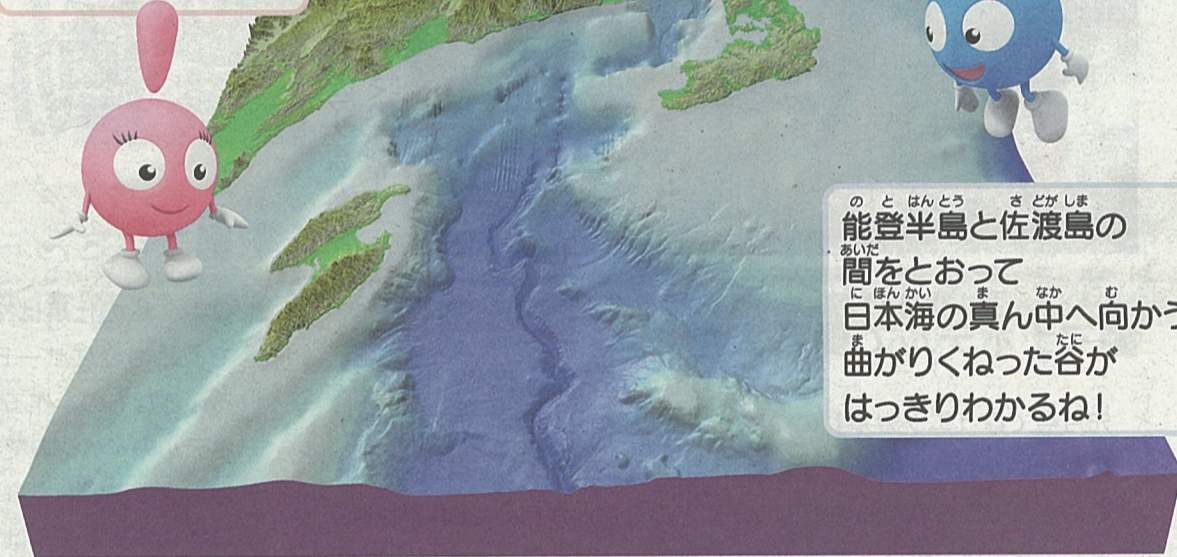
日本で一番長い川は？ そう、新潟県で日本海に注ぐ「信濃川」です。長さは367キロあります。上流では「千曲川」と呼ばれ、源流は長野・埼玉・山梨の3県の県境あたりです。

信濃川って、いったいどのくらいの水が流れているんでしょう？ 信濃川が運ぶ水の量（年間平均）は、1秒当たり学校のプール1杯分の約480立方センチです。これが大雨のときには、4000立方センチを超えることもあるんです。ときには洪水などの災害も引き起こす川の流れは、水だけでなく川底の砂や泥をはじめ、いろいろなものを下流へと運んでいます。

◇海底谷の成り立ち

川はやがて海に達しますが、流れはここで終わりではありません。いくつかの川は「海底谷」につながっていて、川から流れてきた土砂などを、海の深いところまで運んでいきます。海底谷の多くは、海底の急な斜面

いつもの地図とは逆さまの、北からながめた日本海だね



能登半島と佐渡島の間をとって日本海の真ん中へ向かう曲がりくねった谷がはっきりわかるね！

画像協力：岸本清行さん（海上保安庁海洋情報部と国土地理院の地形データを使用）

が水の流れによって削られた谷地形です。海底谷は斜面を下りきって平らなところにたどり着いた後も、曲がりくねりながら続くこともあります。例えば、富山湾から延びる「富山深海長谷」は、日本海の真ん中あたりまで続き、その長さは信濃川の2倍以上の750キロにもなります。

海底谷は、川によって運ばれ

た土砂を、効率よく深い海まで運ぶ水路の役目を果たします。運ばれた土砂は、谷からあふれ出て、谷の両側にたまりまます。たまった土砂が積み重なっていくことで、谷地形はつくられ、さらに沖合に延びていきます。

◇プラスチックごみも

このような地球の営みを詳しく調べていくのも、産業技

術総合研究所の仕事の一つです。川が運んでくる土砂以外に、底引き網などで海底から巻き上げられた土砂も海底谷を通じて深い海に運ばれることが分かってきました。また、海底谷の底にプラスチックごみがたまっていることも分かっています。私たち人間の活動が、遠く離れた深い海の底にまで影響しているのです。

今日の先生



池原研さん

「海洋調査船に乗って海の底を調べて40年。高校生までは海なし県の群馬県で過ごしました」

産業技術総合研究所（産総研）地質情報研究部門。専門は海底の泥から昔の地震や環境を調べる研究。出身小学校は群馬県東吾妻町立原町小。

さんそうけんって？

日本で最大級の公的研究機関なんだ。茨城県つくば市など、全国11か所の研究拠点があって、日本の産業や社会に役立つ技術について研究を進めているよ。

キッズむけウェブページはこちら →
(さんそうけんサイエンスタウン)

